麻酔科医としてのキャリアロードマップ

最低限必要な基礎的資格 ＞ 麻酔科医としての専門性 ＞ サブスペシャリストとしての地位の確立

1年目～ **各種認定試験**

- 心エコー、区域麻酔

3年目～ **麻酔科標榜医**

Step 1

- 麻酔管理料を算定可
- 常勤医としての価値

5年目～ **麻酔科専門医**

Step 2

- 麻酔科医としての専門性
- 上位の専門医申請に必須
- アルバイト収入のUP

6年目～ **集中治療専門医**

Step 3

心臓血管麻酔専門医

区域麻酔認定医、指導医

ペインクリニック専門医

- 専門性を更に高める

10年目～ **麻酔科指導医**

4年目～ **小児麻酔認定医**

3年目～ **麻酔科認定医**

学位

医学博士（PhD）の取得（卒後4年目～）

- 社会的地位の向上、経歴の充実
- 一部施設では役職に就くために必要

麻酔科標榜医（麻酔医3年目～取得可）

- 厚生労働大臣の許可を得て「麻酔科を標榜できる」資格。
- 2年以上の麻酔修練（週30時間以上の専従）か、2年以上の麻酔経験＋300例以上の全身麻酔管理経験（気管挿管下）が必要とされる。
- この資格を持つ医師が常勤医として麻酔を行うことで、1症例につき1050点を加算して算定することが可能となり、就活時のアピールポイントとなる。
- 麻酔科医として最も重要な資格（取得は容易）。

麻酔科認定医（麻酔医3年目～取得可）

- 麻酔科学会が認定する初等資格。麻酔科医として歩み始めた入門者が最初に目指す。
- 学会指定病院での2年以上の麻酔修練＋標榜医が必要。
- 特にアピールポイントにはならないが、現在のところ一部サブスペシャルティの認定申請に必要（小児麻酔認定医など）。

麻酔科専門医（麻酔医5年目～取得可）

- 日本専門医機構が認定する「19領域専門医」の1つ。
- 4年間の専門研修（週3日以上）と、筆記試験、実技試験、口頭試験への合格が必要。
- サブスペシャルティ領域（後述）の認定医、専門医の申請に必要。
- 一般的に非常勤、スポットアルバイトで募集されている麻酔科医にはこの資格が求められる。この資格が無くても応募できるアルバイトもあるが、施設によっては報酬が2割程度減額される場合がある。
- 標榜医＋専門医があれば大抵のことには困らない。逆に言うとこの2つは必須。
- 大学内でのステップアップにも必要。

サブスペシャルティ（麻酔医6年目～取得可）

- 集中治療専門医、心臓血管麻酔専門医、区域麻酔認定医・指導医、ペインクリニック専門医などが含まれる。
- 機構専門医認定の麻酔科専門医がないと申請できない上位資格。
- 大半において専門的知識を問う試験への合格を求められる（区域麻酔認定医以外）。
- より専門性を高めた医師であることを証明するといえる。
- サブスペシャルティ研修認定施設の指導医として必要。
- 一部の施設では就職に必要な場合もあるが、まだ一般的ではない。

医学博士（医師4年目～取得可）

- 社会人大学院を利用すると卒後最短4年目で取得可（課程博士）。
- 大学院を利用しない場合、岩手医科大学の研究員として満6年従事した

経歴があれば論文により申請できる（論文博士）。

- 高度かつ広範な最先端の医学知識と医療技術・技能を修得した証明。
- 社会的地位の向上、経歴の充実。一部施設では役職に就くためにも必要。
- 大学内でのステップアップには必須。

麻酔科指導医（麻酔医10年目～取得可）

- 麻酔科学会が認定する資格。
- 麻酔科専門医を5年以上経験すると申請できる。
- 特にアピールポイントにはならない。
- 日本麻酔科学会認定病院の長になるものには求められる場合がある。

各種認定試験：JB-POT認定医

- JB-POTとは日本周術期経食道心エコー認定委員会の略称であり、主に

心臓麻酔中に施行される経食道心エコーのレベルアップを目指す団体である。

- 心臓血管麻酔専門医の資格申請に必須。
- 認定試験は合格率5割程度と麻酔科領域の試験では最難関とされる。
- やる気次第では1年次研修医での合格例もあり。

各種認定試験：J-RACE

- J-RACEとは日本区域麻酔検定試験の略であり、主に手術中に施行される

神経ブロックの知識・技術水準のレベルアップを目指すものである。

- 区域麻酔指導医の資格申請に必須。
- 認定試験は合格率6割程度と麻酔科領域の試験では標準的。
- やる気次第では1年次研修医での合格も理論的には可能。

まとめ

- 麻酔科を志す医師として、まずは麻酔科専門研修を行いつつ標榜医を取得し、専門医試験の勉強をしていくのが一般的でオススメ。
- その過程で自分がどのサブスペシャルティ（集中治療、心臓麻酔、区域麻酔、小児麻酔、産科麻酔、ペインクリニックなど）に進むかを考える。
- 目指すサブスペシャルティに向けて研修を受け、認定試験に挑戦していく。
- 場合によっては国内外有名施設への留学も可能。
- 並行して、博士号取得を目指す。